

旅から旅行へ

講師：八杉 淳（草津市立草津宿街道交流館 館長）

令和2年2月15日（土） 於：草津宿街道交流館

今回は当館館長・八杉 淳が、「旅から旅行へ」と題し、講演いたしました。

私たちはなぜ旅に出るのでしょうか？その答えとして、人間には日常を抜け出して非日常を求める「旅欲」というものがあるそうで、これが直接的な要因となっているそうです。そして、その旅欲を叶えるために、お金や時間をはじめとした「旅に出られる条件」が間接的に作用し、これらが整えばいよいよ旅に出ることができるようになります。



日本の歴史上、この旅に出られる条件であるお金や時間、情報、宿場や街道等のインフラ、そして社会の安心・安全が整ってくるのが江戸時代でした。このため町人や農民といった庶民も旅に出るようになり、旅文化が発達し栄えていきました。当時は天皇のいる憧れの地・京への旅人が多く、寺社参詣をしてまわるとともに、これまた京でしか見られないお公家さんを見るのが一つの楽しみであったそうです。また、楽しむだけではなく農民については、訪れた地の田畑も見て学んだことを自身の農業に活かしていたことから、農業技術の発展にもつながっていました。江戸時代の旅は見聞を広めることが主な目的だったようです。

明治時代に入ると新たな移動手段として鉄道や汽船などが登場し、これらを利用することで目的地までの移動時間が大幅に短縮されるとともに、移動の範囲が拡大しました。

民俗学者の柳田國男は昭和2年の講演「旅行の進歩及び退歩」において、「即ち旅はういものつらいものであつた。以前は辛抱であり努力であつた。（略）より大なる動機又は決意がなくてはならぬ。だから昔に遡るにつれて、旅行の目的は限局せられて居る。楽しみの為に旅行をするやうになったのは、全く新文化の御蔭である」と述べています。

このように、江戸時代まで多くの人々にとって、旅とは幾日もかけて目的地まで自分の脚で歩かなければならないものであり、その道中にはたくさんの危険が伴ったことから、旅に出るにはそれなりに大きな理由と決断が必要でした。しかし、移動時間の短縮と範囲の拡大を可能とした鉄道など乗物の登場によって、旅は比較的気軽に出来るものとなり、楽しむ余裕ができました。これにより江戸時代に比べ、旅の目的は多様化し、温泉やグルメ、風景や体験といった様々な目的を持てるようになりました。どうやらこの辺りから「旅」は「旅行」へと変化していったようで、旅が近代化したものが旅行となったようです。

（文章：草津宿街道交流館）